

# 景観からのまちづくり

## まちづくりシンポジウム開催

10月12日、教育会館において、まちづくりシンポジウム「景観からのまちづくり」を開催しました。

市民や関係者など約150人が参加して、勝山の資源である景観を保全し、活かしていくにはどうすべきかについて考えました。

始めに、シンポジウムの開催にあわせて募集しました、「あなたが美しいと感じる景色」1画面・写真コンクールの優秀作品者11人の表彰が行われました。1450点の応募の中から、最優秀賞には、図画部門では小林千純さん(村岡小2年)と、木船友加里さん(勝山南中2年)が、写真部門では乾 来実さん(平泉寺小6年)が選ばれました。

その後、宗田好史准教授が、「景観からのまちづくり—新時代の景観づくり—に伝統の知恵を活かす工夫」と題して基調講演を行い、パネラー5人による「勝山市の景観への思いとこれから」をテーマとした討論も行われました。



小林千純さんの作品



木船友加里さんの作品



乾来実さんの作品

### 宗田好史准教授による 基調講演から

#### 昔からのものがあることがいい

勝山市には、古くから残っている建物や、山や川などさまざまな景観資源があります。変化していく現在在だからこそ、古いものがあることが重要であり、これらからどれだけ残していくのかということが大切です。

我々が生まれる前からあるものを大切に守りながら、新しい勝山の未来を創っていくということが大事になってきます。しかし、こういったものを残すことは簡単ではありません。

今から30年後に美しいと感じる勝山の景色と、いま生活している人たちが美しいと感じるものが同じであるというように、親から子へ、子から孫へと継承していくこと、また持続する暮らしが勝山の市民文化になっていきます。

#### 建物と一体となった環境を守る

自然景観である山や川を昔から「風致」といいます。勝山で考えると、白山や、山の上から勝山を見下ろす全景、そして平泉寺や市街地など色々あります。しかし、歴史的建造物の周辺で、建物と一体となった環境をどう守るかといったことが、これから大事になってきます。例えば、城下町はそのまま残っているとは思えない状況にありま

すが、まちなみはしっかりと残っています。そういった昔から変わっていないものをどう伝えていくかということが景観を守っていくということになります。

#### ルールをつくらせて調和を

古いものを守り伝えること以外に、古いものを取り戻し、創り出していくということがあります。市民の皆さんのルールづくりによっても調和を図ることが出来ます。例えば四角い建物に軒をつけるなど、新しい建物をまちなみに調和させるというルールづくりをしていただきたいと思います。

また、古き良き建物については、景観重要建造物に指定したり、昔からあり景観的に重要な樹木などは景観重要樹木に指定したりできます。景観重要建造物については、内装は使い勝手がいいように改修できますが、外観だけは伝統的な形態を残すことになり、市と所有者には負担もかかりますが、市と所有者で相応の負担をして残していくことになり、

#### 市民団体の活動が必要

勝山市では、勝山駅舎は国の登録文化財に指定されており、また、旧機業場は市の指定文化財に指定され、ここを起点としてまちづくりの歴史文化を伝えていくという取り組みをすでに行

### パネラー5人を交えた パネルディスカッションから

宗田 図画・写真コンクールの作品を見てどう思われましたか。

吉田 もう少し古い建物の絵があるのかなと思っていましたが、お城の絵が多かったのは驚きました。

義野 子どもたちの絵には、家から見た風景が多く、それでも絵になるのは、勝山の自然が豊かで素晴らしいからだと思います。

木村 子どもたちは、自分が遊んだり体験したりした場所を描くのだと思います。お城も好きですし、川や山も大好きなんです。

石畝 作品の中で、「長尾山と恐竜博物館」「田園風景と勝山城」「九頭竜川と勝山橋」など、新しい勝山の顔ともいえる景観が多く描かれていました。これらのシンボリックな建物とか構造物は、勝山の自然と互いに引き立てあうような効果があるように思います。

市長 感動しましたのが、夕焼けや入道雲、夜空などの絵がありまして、そんな日常的な自然を絵に表そうとしていることです。このこと自体が勝山の魅力ではないかと思いました。

宗田 子どもたちが、美しいと感じることも大切ですが、お母さん、おばあちゃんも美しいと感じていた景色を思い出すことも大切なことではないかと思えます。

では、勝山のまちなみについてどう思われますか。

吉田 県内でも勝山に残っている町家の建物は一流です。勝山は、景観に関するどのような制度も当りはまると思います。

宗田 景観に関する指定を受けても、新築や改修は出来ます。ただ、まちなみに合った建物を建てていただくことになるわけです。

義野 「自信を持ってここに住んでいられるんだよ。」と言えるような取り組みをしていきたいと思っています。

木村 勝山には平泉寺や恐竜だけでなく、ほかにも良いところがいっぱいあって、それをつなぐことが大切だと思います。

石畝 なにげなく見過ごしているものをもう一度見直して、地域のなかでまちなみについて語れる若いリーダーを育てていくことが大切だと思います。

市長 今まで取り組んできた結果として9月11日に本町3区のかたがたと景観協定を結びことができました。自主規制ですけど、まちなみに合った景観にしていきましょうとの内容で締結をしました。

このような取り組みが、勝山を変えていくのではないかと、変えていきたいと思っています。市民とベクトルを一緒にしながら、まちづくりを進めていきたいと思います。



宗田 好史氏 京都府立大学准教授  
吉田 純一氏 福井工業大学教授  
義野 陽子氏 もっと勝山が好きになるプロジェクト「ラブ勝」メンバー  
木村 美智子氏 平泉寺小学校校長  
石畝 正樹氏 エコミュージアム協議会長  
山岸 正裕 勝山市長

っています。単体としての整理はできつつあります。次の段階は、皆さんがお住まいのところにどのように広げていくかということですね。

これは多くの建物の規制を行っているということですから、まずは建物の高さや位置、形、色彩、意匠といった規制をかけることとなります。さらに、率先して勝山のまちを良くしていくという市民グループの活動が期待されます。そういった市民団体の活動に係る費用についても、市がサポートを行うことも可能です。

#### つながりを絶やさない

自分のふるさとをいつまでも美しいと思えることは、大変幸せなことですね。だからこそ、その幸せをしっかり子どもたちに伝えるというために、勝山の歴史を守っていくことが大事なのです。

新しければ人が集まるといってはいけません。その反対で懐かしければ人は戻ってきます。外から人を呼ぶ前に、まずはつながりのある人を呼ぶための取り組みを行うことが第一なのです。勝山が福井の郊外にならないためには、今の文化を消さないことであり、これからもしっかりと残していくという取り組みが、実は景観からのまちづくりであり、景観の形であるのです。